

概要

シンプルでカスタマイズもそこそこできる軽量なターミナル。
OpenGL を使って描画行っており早い。

OpenGL の使えない環境で利用する

Windows で OpenGL が使えない場合、以下の方法で利用できる

1. <https://github.com/pal1000/mesa-dist-win> のリリースから Windows 用ビルドをダウンロード (mesa3d-*-release-msvc.7z など)
2. 展開して以下の DLL を alacritty.exe と同じディレクトリに配置する
 1. opengl32.dll
 2. libgallium_wgl.dll
 3. dxil.dll

WSL(WSLg) での日本語入力について

WSL 上で Linux バイナリの alacritty を起動すると日本語入力 (IME) ができない場合がある。原因と対処法を記載する。

■原因

1. Wayland 側の原因
 1. WSLg の Wayland コンポジタ (Weston) が公開する text-input プロトコルは zwf_text_input_manager_v1 のみ
 2. alacritty(winit) が実装しているのは zwf_text_input_v3 のみ
 3. バージョンが噛み合わないため、Wayland 経由では IME 機能自体が無効化される
2. X11 側の原因
 1. X11(XWayland) 経由なら XIM 経由で入力できるが、その XIM サーバである ibus-x11 が起動していないと同様に入力できない

■対処法

XWayland 経由 (XIM) に切り替えることで解決する。WSLg には標準で XWayland があるため、追加の X サーバは不要。

ibus-x11(XIM サーバ) を起動する

```
ibus-daemon -drxR
```

-x が XIM サーバ (ibus-x11) を有効化するオプション。

alacritty を Wayland ではなく X11 バックエンドで起動する

```
env -u WAYLAND_DISPLAY alacritty
```

環境変数 WAYLAND_DISPLAY を外すことで、winit が X11 バックエンドを選択する。
XMODIFIERS=@im=ibus が設定されていれば、ibus-x11 経由で日本語入力が可能になる。

■恒久化する場合

1. ~/.bashrc の ibus 起動処理に -x オプションを追加し、シェル起動時に自動で ibus-x11 が立

つようにする

2.~/bin/alacritty をラップースクリプト化し、env -u WAYLAND_DISPLAY 経由で本体を起動する